

## 北陸地方の国営事業地区における高収益作物の導入に向けた取組事例 Case of effort to introduce highly profitable crops to land improvement project area in Hokuriku region

○福羅栄治\*・三谷和也\*

FUKURA Eiji, MITANI Kazuya

### 1. はじめに

現在、わが国では主食用米の需要や価格が低迷していることから、農業所得の維持・向上を図るため、水稻に依存した農業から脱却するとともに、野菜や果樹等の高収益作物の導入が推進されている。

本稿では、北陸地方の国営事業地区を対象に、高収益作物の導入に向けた取組事例について紹介する。

### 2. 対象地区の概要

対象地区は、北陸地方に位置する約 2,400ha の水田地帯からなる N 地区であり、稲作を中心とした農業経営が展開されている。

現在 N 地区では、国営事業により、維持管理費の低減に向けた農業水利施設の老朽化対策や、揚水機場、パイプライン及び調圧水槽で構成される需要主導型水利システムへの再編が進められているほか、営農作業の省力化及び高収益作物の導入による収益性の高い農業経営の実現に向けて、関連事業によりほ場整備が進められている。

### 3. 高収益作物導入に向けた取組

#### 3.1 導入支援に係る取組

(1)取組概要 高収益作物の導入支援に係る取組として、先進地視察や講演会等の普及・啓発のほか、地区の課題把握や集出荷作業の機械化に係る検討を行った (Table 1)。

Table 1 高収益作物の導入支援に係る取組  
Support for introduction of highly profitable crops

年度	項目	取組概要
H29	事例収集	高収益作物導入に係る先行地区事例を収集
	講演会の開催	先行事例地区の関係者による講演会を開催
H30	ワークショップの開催	意見交換のために地域の営農者を交えたワークショップを実施
	先進地視察	高収益作物導入に係る先進地を視察
R1	地区営農の省力化対策検討	高収益作物の集出荷作業の機械化について検討
R2	意見交換会の開催	高収益作物導入の課題・取組方針に係る意見交換会を開催
	委員会の開催	農地利用集積調整・営農推進委員会を開催
	普及啓発資料の作成	高収益作物の導入促進に向けた普及啓発資料を作成

(2)地区の課題把握 意見交換会等における地域の営農者等の意見を基に、N 地区における高収益作物導入に係る課題を整理した結果、「**基盤整備の実施**」、「**作業負担の軽減・解消に向けた機械化**」及び「**集出荷施設の整備**」が重要課題であることが明らかになった (Table 2)。

Table 2 高収益作物導入に係る課題  
Problem with introduction of highly profitable crops

観 点	課 題
a. 農業生産基盤	・土壌が粘性土で畑作に向きないため、園芸に適した土地の選定が重要。 ・ <b>地下水位が高く排水条件が悪いため、基盤整備が必要。</b>
b. 施設・機械	・個人でのハウスや機械の導入は初期投資の負担が大きいため、 <b>補助金やリース等による負担軽減や、JAによる設備の充実に期待。</b>
c. 品目・作付け	・何を栽培すればよいか、産地として成り立つ品目の選定が重要。 ・園芸作物の栽培実績が少なく、栽培技術・ノウハウに乏しい。
d. 労働力・人材	・担い手不足、後継者問題が大きい。 ・園芸作物は作業の手間がかかるため、 <b>作業負担の軽減・解消には機械化が必要。</b>
e. 販売	・販路及び販売先の確保が必要であり、市場でのニーズのある高収益作物の情報をどうキャッチするかが重要。 ・生産、出荷（共運）、販売体制の整備が必要であり、 <b>JAに集出荷施設の整備を期待。</b>

※下線部分：複数の営農者・関係機関の共通意見として、重要課題に位置付け。

\* サンスイコンサルタント株式会社 SANSUI CONSULTANT Co.Ltd

キーワード：高収益作物，基盤整備，機械化，集出荷施設整備

(3)集出荷作業の機械化に係る検討 国営事業等による基盤整備が完了し、経営規模の拡大や機械の大型化等を契機に高収益作物の作付面積・生産量が増加すると、収穫後の調製・選別作業の負担も増大する。そのため、県の特産品であるえだまめを対象に集出荷作業の機械化に係る検討を行った。

検討の結果、イニシャルコスト(設備導入)に約13百万円を要するものの、人力作業の手間や人件費の減によりランニングコストが約99百万円減少することから、集出荷施設の整備により、作業コストを大幅に低減可能なことを確認できた (Fig.1)。

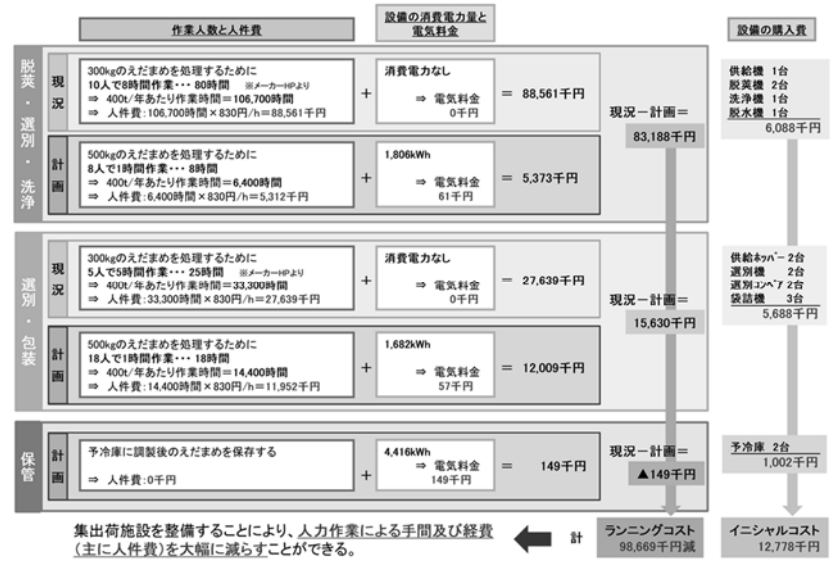


Fig.1 えだまめ集出荷作業の機械化によるコスト低減 Cost reduction by mechanization of edamame collection and shipment works

3.2 集出荷施設整備及び試験栽培

基盤整備後に水田転換畑での作付拡大が期待されるえだまめ・たまねぎについて、集出荷施設が整備されたほか、県・JA・営農者等の連携により、試験栽培が行われている (Table 3)。

Table 3 集出荷施設整備及び試験栽培

Construction of collecting and shipping facility, and test cultivation

作物	取組	取組(稼働)開始年度	概要
えだまめ	集出荷施設整備	R2	・JA選果施設...処理能力:1t/hr
	試験栽培	R3	・JA共同選果施設...処理能力:350kg/hr
たまねぎ	集出荷施設整備	R2	・モデルほ場(1ha区画)で試験栽培を実施。
	試験栽培	R2	・JA乾燥・調製施設...処理能力:15t/日
	試験栽培	H30	・県、JA等が共同出資し、関連ほ場整備事業の受益内の実証ほ場(0.5ha)で試験栽培を実施。

3.3 今後の取組(案)

今後、園芸生産を拡大して農業経営の幅を広げるため、営農者と関係機関の連携により、当面はえだまめを対象に、高収益作物の導入に向けた取組を予定している (Fig.2)。

4. おわりに

北陸地方の国営事業地区における高収益作物の導入

高収益作物(例:えだまめ)の導入に向けた取組内容・工程(案)

区分	NO	取組内容	年度						関係者						
			R元	R2	...	R18	...	R22	R23	営農者	JA	土地改良区	県 ほ場整備部局	市 営農推進部局	国
生産	1	国営事業(水利システム再編)	■												
		関連事業(ほ場整備)	■												
	2	生産技術・機械の導入	■	■	■				◎	◎	○	◎	◎	○	○
	3	労働力の確保	■	■	■	■	■		◎	○	○	○	○	○	
集出荷・流通	4	集出荷施設の整備	■	■	■	■	■		◎	○	○	○	○	○	
	5	販路の開拓・確保	■	■	■	■	■		◎	◎	○	○	○	○	
密着普及	6	えだまめ等を原材料とした食品加工(必要に応じて)	■	■	■	■	■		◎	◎	○	○	○	○	
	7	モデルほ場の検討	■	■	■	■	■		◎	◎	○	○	○	○	

※ 関係者について: ◎...取組主体、○...支援主体

Fig.2 高収益作物導入に向けた今後の取組(案)

Draft of future effort to introduce highly profitable crops

事例のN地区では、高収益作物の導入支援に係る各種取組(普及・啓発、課題把握、集出荷作業の機械化に係る検討等)を経て、現在、集出荷施設の整備や試験栽培が進められている。今後、国営事業及び関連ほ場整備事業による基盤整備の進展に伴い、高収益作物に係る一層の取組拡大が期待される。